

平成28年第14回教育委員会定例会（秘密会）

開会年月日 平成28年7月20日（水）
場 所 教育委員会室

出席者 教育委員会 教育長 河 口 浩
同 委 員 外 松 和 子
同 委 員 安 藏 誠 市
同 委 員 長 島 良 介
同 委 員 坂 口 節 子

議 題

3 答申

- (1) 小学校特別支援学級調査委員会および中学校特別支援学級調査委員会からの答申について

会議に出席した者の職・氏名

教育振興部長	大 羽 康 弘
こども家庭部長	堀 和 夫
教育振興部参事教育総務課長事務取扱	櫻 井 和 之
同 教育指導課長	芝 田 智 昭
こども家庭部子育て支援課長	鳥 井 一 弥

- (1) 小学校特別支援学級調査委員会および中学校特別支援学級調査委員会からの答申について

教育長

それでは、答申(1)「小学校特別支援学級調査委員会および中学校特別支援学級調査委員会からの答申について」から始めたいと思う。

特別支援学級で使用する教科用図書については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第15条および学校教育法附則第9条の規定により、毎年度、採択替えができることになっている。

このため、本年4月に特別支援学級教科用図書の採択にかかる調査委員会を設置し、調査・検討をお願いした。本日答申をいただいたので、順番に調査委員会からの答申内容について説明を受けたいと思う。小学校、中学校それぞれの調査委員会委員長に入室をお願いする。

佐野小学校特別支援学級調査委員会委員長（豊玉第二小学校長）

晴佐久中学校特別支援学級調査委員会委員長（南が丘中学校長） 入室

教育長

それでは最初に、佐野小学校調査委員会委員長から答申内容の説明をお願いします。資料も出ているので、皆さんは資料2 - 1をごらんいただきたい。それでは、よろしくをお願いします。

小学校調査委員会委員長

それでは、小学校特別支援学級教科用図書の調査研究について、答申内容の説明をさせていただきます。調査委員会は各校研究会に対し、学校教育法附則第9条に定める一般図書に係る研究を依頼し、練馬区立小学校の特別支援学級での使用を希望する一般図書127冊の研究報告を受けた。報告を受けた図書は、お手元の資料、「小学校特別支援学級教科用図書一覧」のとおりである。

調査委員会としては、学習指導要領を踏まえ、各校研究会の報告を参考に、各校の意見を尊重し、調査研究を進めた。これまで練馬区教育委員会で採択したことのない図書で、各教科の主たる教材として有効かつ適切と思われる図書について、諮問の趣旨を生かし、調査研究した。

資料2別紙1をごらんいただきたい。調査研究内容の報告をする。

ア、『新レインボー小学国語辞典』（国語）学研プラス。語彙を広げるのに有効。インデックスが50音で示され、ことばが探しやすい。

イ、『にほんごたいすき！ことばの図鑑』（国語）チャイルド本社。1つのテーマが見開きで構成されており読みやすい。さまざまな観点からことばに触れることができ、内容に興味を持てる。

ウ、『ゆっくり学ぶ子のための国語5』（国語）同成社。児童の生活に身近な題材の文章が多く取り入れられている。指導の展開が明記されており、学習のねらいがわかりやすい。

エ、『小学新国語辞典』（国語）光村教育図書。漢字の書き順が掲載されている等、国語辞典のほか、漢字辞典としても使用できる。各ページに最初と最後のことばが掲載されており、検索しやすい。

オ、『ちずあそび』（社会）岩崎書店。身近な題材から入り、読んでいくうちに地図について学ぶことができる。初版が古いため、挿絵が古い印象を受ける。

カ、『はっけんずかん のりもの 改訂版』（社会）学研プラス。最新の乗り物が掲載されており、しかけが多く、児童の興味を引く内容である。字が小さく読みにくい。

キ、『算数たんけん かけ算とかけ算九九』（算数）偕成社。児童に親しみやすい絵とストーリーで興味、関心を引く。掛け算と九九の仕組みが理解しやすく工夫されている。

ク、『さんすうたいすき あそび・つくる・しらべる1年』（算数）民衆社。1つの題材で1つの単元が構成され、わかりやすい。計算・量の測定などの領域がカバーされており、教科書として扱いやすい。

ケ、『まるごと日本の季節』（理科）学研プラス。季節ごと、月ごとに自然・文化・身の回りの内容が詳しく説明されている。

コ、『はっけんずかん どうぶつ 改訂版』(理科) 学研プラス。親しみのある動物の生態が、しかけなどによって興味を持って学ぶことができる。写真や絵など、カラーでわかりやすく紹介されている。

サ、『いっしょに歌って! たのしいうた絵本』(音楽) こぐま社。定番の曲がたくさん掲載されており、ぜひ覚えてほしい曲が多い。挿絵により、歌のイメージを児童につかませやすい。

なお、審議の経過等については別紙2に記載しているので、ごらんいただきたい。

教育長

ありがとう。

続いて、晴佐久中学校調査委員会委員長から資料2-2に基づき、答申内容の説明をお願いします。

中学校調査委員会委員長

中学校特別支援学級調査委員会委員長の晴佐久和彦である。よろしく願います。

それでは、中学校特別支援学級教科用図書の調査研究について説明させていただく。

4月27日に教育委員会から諮問を受けた。平成29年度使用の特別支援学級教科用図書の調査研究について、中学校特別支援学級調査委員会は、本日7月20日に、教育委員会あて答申を提出した。以下、この答申について説明させていただく。

資料2-2をごらんいただきたい。中学校特別支援学級調査委員会は、特別支援学級設置各校に設けられた各校研究会に対し、学校教育法附則第9条に係る図書の研究を依頼した。また、4月から3回会議を開催し、各校研究会からの報告書等を参考に慎重に研究、検討を行ってきた。

まず、別紙1の記書きの1である。調査研究を行った図書数は、各学校の意向を踏まえ、49冊の図書を調査研究した。継続採択候補図書47冊、新規採択候補図書2冊である。種目ごとの冊数および図書名等の詳細については3ページ以降に掲載しているので、お目通しいただければと思う。

次に、記書きの2、調査研究における意見等についてである。継続採択候補の図書の調査研究に当たっては、各研究校の意見を参考にし、生徒にとって適切であるかどうか、図書の内容を整理し、調査、研究した。

続いて、新規採択候補図書について説明する。今回、新規採択候補図書は2冊あり、調査委員会において、それぞれ内容についての精査を行った。

初めに、ア、『例解学習国語辞典』について説明する。出版社は三省堂。資料には特徴が4点記されているが、全体として、本図書は国語の学習を進める上で基本となる語彙力を伸ばすのに適しており、国語の授業のみならず、他の教科を含めたさまざまな場面での活用が考えられる。

図書の特徴としては、文字の大きさやレイアウトが見やすくなっていることで、ことばを調べやすくなっていることが挙げられる。また、ことばの意味を調べるのと同時に、漢字の書き順などの学習、百人一首や慣用句の知識など、学習の幅が広がるような構成となっており、国語への興味、関心の高まりにつながると考えられる。

次に、イ、『ゆっくり学ぶ子のためのさんすう4』について説明する。出版社は同成社。資料には特徴が5点記されているが、全般的には数学の学習を進める上で必要となる四則計算の基礎的な部分の定着を図っていくのに適した図書であると考えられる。

図書の内容だが、四則計算の中でもつまずきやすい繰り上がり、繰り下がりの計算をスムーズに学んでいくため、学習の流れが段階を追ってしっかりつくられていることが挙げられる。また、数字が大きく見やすいこと、イラストに統一性があることなど、学習に集中しやすい表記および内容になっている。

その一方で、全体的に色みが少なく明るさに欠ける点があり、また、生徒によっては内容が易しい部分もあるので、個々の理解度に応じて図書の使い方を工夫する必要があると考える。

次に、13ページ、別紙2をごらんいただきたい。中学校特別支援学級調査委員会の審議経過等である。また、参考資料として、各校研究会の研究報告をまとめた「平成29年度使用中学校特別支援学級教科用図書研究報告一覧」を9ページから12ページまで添付している。お目通しいただきたい。

以上で、中学校特別支援学級調査委員会の答申説明を終わる。

教育長

それでは、ただいま説明があった答申内容について、各委員からご質問、ご意見があれば、お出しいただきたい。いかがか。

坂口委員

私は、このような経験は初めての役割である。今回、中学校の新規候補は2冊と少ない。毎年、数は同じ程度なのか。

教育長

中学校では新しい候補は2冊であった。今までずっと積み重ねてきた図書があるから、それをまずは使って、さらに何かよい教科書になるものが出てきたら、それを採用する手法である。むしろ、今回は小学校の新規候補が多かった。

小学校調査委員会委員長

そうである。配給が不能になってしまった本などがあるので、それにかえるということで、今回は新規候補が多くなっている。改訂版ということで話をしたのは、以前は改訂前のものを使っていたものが、改訂版として発行されたので、これを新しく新規候補として出させていただいた。

坂口委員

もう一つ質問だが、この2冊が採用されると、支援学級の生徒は全部プラス2冊を教科書として手渡されるのか。

中学校調査委員会委員長

その本が全て使われるわけではない。1年生、あるいは2年生はこの本を、3年生はこれを使うというように、中学校の場合は学年によって採用する。また、学校によっても何を採用するかという点は違ってくるので、全部の学校、全部の学年で使うということではない。

坂口委員

わかった。

教育長

よろしいか。ほかにいかがか。

外松委員

今、話を聞いて、ほんとうに生徒それぞれに応じて、図書が選ばれていることを感じた。多忙な中、何回も話し合いを重ねていただいた結果が、このように一覧になっているということである。後でまた見せていただきたいと思っている。ありがとう。

教育長

小学校もいくつか、例えば、字が小さい、色が薄い、古いなど、結構ネガティブな評価の部分もあるが、やはり全体的には、ぜひ採用したいということではよろしいか。

小学校調査委員会委員長

はい。

教育長

わかった。

外松委員

説明を伺いながら、そのように感じた。

教育長

私どもも図書の内容をしっかりと見させていただき、最終的な判断をさせていただきたいと思っている。

ほかにいかがか。よろしいか。

それでは、お忙しい中、調査委員会の先生方においては議論し、調査をしていただいたことに対して心から感謝を申し上げます。それでは、お二人は退席をしていただいて結構である。ほんとうにありがとう。お疲れさまであった。

佐野小学校特別支援学級調査委員会委員長、

晴佐久中学校特別支援学級調査委員会委員長 退室

教育長

それでは、ここからは教育委員会としての審議に入る。各委員におかれては、机上に見本本があるので、ぜひ答申を踏まえて、各本を見ていただき、また、審議の際にご意見をいただければと思う。よろしく願います。

見本本の点検